

ビジター抑え 自然守る

知床や屋久島 地元も参画

だき人が押し寄せることになり、自然。その事態を避けようとして、知床（北海道）と屋久島（鹿児島）で、国内を代表する自然地域で、利用する人たちの数を制限しようとする試みが最近相次いで動き出した。とむに、来年以降の本格導入を目標とか、定着すれば他の地域にも広がっていく可能性が高い。

踏み散る植物 チリ紙が散乱

島下町の知床。耳を澄ますと、林の奥からアマガサの囁き声が聞こえてきた。

知床五湖で「利用コントロール」が導入されたのは、地元が自然保護の心算を固めたことだ。

知床五湖の利用のあり方協議会、環境省などによる「知床五湖の自然保護を将来にわたって維持していく」が目的の組織だ。

「立ち入り禁止のロープが張られた参道の大部分を、エコツアーの参加者だけに開放した。

参加費はツアー事業者ごとに異なるが、1人3000～5000円。

ツアーに客は10人までと制限された。20分おきに出発し、間隔を空ける時間も確保し、くわ



①参道の敷設が制限された知床五湖。環境省がガイドでは、ハイアツに並ぶ登山者たちの姿が見られた。②武田剛撮影

て湖を渡る。ふだんは数珠つた入者が10万人を突破。山小屋の観光客で込み合っときも多いため、空きはときに立ち止まることが困難だ。ハイアツの自然観察ができる。ハイアツの小屋周辺の沢では大團圓も検出された。山中では新たなハイアツ整備に必要で、調整が難しかった。大勢の観光客によって、参道境界があることから、日帰りが登山は携帯トイレで持ち帰ることもできない。今回の試みは、どうも。そのうえで人数を制限する方針だが、観光客は1日300人で80人に限るといった案が出ている。

島などに先例 人気に拍車も

参道に、利用者数を制限してのハードルは低くなった。屋久島では、この法律を適用する方法が有力視されている。サングラスで有名な知床の環境問題でも、ハイアツの客の数を制限する手法として検討されている。

2015年からは、地元の観光客を抑制する考えだ。観光業者が反発することになった。

だが、利用者の制限によって、人気が増し、地元を安定した収入をもたらす場合もある。ハイアツなどでは、制限されることで何カ月も予約が埋まったという地域もある。

江戸川大の吉田正教授は、必要としない意見が日本でもよく出てくると述べた。

先行事例を通じて、そこに適した方法を探している。



環境